

「ふたりのアトリエ～ある彫刻家とモデル」

☆☆☆

★

2013（平成25）年11月7日鑑賞＜ビジュアルアーツ専門学校試写室＞

監督・脚本：フェルナンド・トルエバ

共同脚本：ジャン＝クロード・カリエール

マーク・クロス（80歳の老彫刻家）／ジャン・ロシュフォール

メルセ（モデルとなる若いスペイン娘）／アイダ・フォルチ

リー・クロス（マークの妻）／クラウディア・カルディナーレ

ヴェルナー（ドイツ軍人、マークの友人）／ゲッツ・オットー

マリア（クロス家の家政婦）／チユス・ランブレアヴェ

エミール（マークの友人の大理石職人）／クリスチャン・シニジェ

ピエール（レジスタンスの男）／マーティン・ガメット

アンリ／マテオ・ドリユウス

2012年・スペイン映画・105分

配給／アルシネテラン

◆ 邦題どおりの老彫刻家マーク・クロス（ジャン・ロシュフォール）と、その最後の作品のモデルとなった若きスペイン娘メルセ（アイダ・フォルチ）との間の芸術作品創作の物語を、山の中にあるアトリエを舞台として描いた本作は、ヌード姿を惜しげもなく披露するメルセの女体の美しさとアトリエの美しさが際立っている。去る10月13日に観た、『ルノワール 陽だまりの裸婦』（13年）と同じような趣向の映画だ。男たるもの、芸術家たるもの、やはりいくつになっても創作意欲をかき立てられるのは美しい女性、しかも裸の女性美なのだということを痛感！

◆ 画家のルノワールやゴッホは有名だが、あなたは本作の主人公となったフランスの彫刻家アリスティド・マイヨールを知ってる？寡聞にして私は全く知らなかったが、彼はピカソ、ゴーギャン、マティス、ロダンら、多くの芸術家と親交があったらしい。そして、40歳を過ぎてから本格的に彫刻を手掛けるようになった彼が初の個展を開いた際に、作品を観たロダンが「このブロンズはすべての人にとって模範である。彼は天才だ。」とその才能を絶賛し、高く評価されるようになったらしい。

本作が描かれるのは1943年夏、ナチス占領下のフランス南西部。スペイン国境近くのとある村に住む名高い老彫刻家マークも今は80歳となり、昔モデルをしていたという妻リー・クロス（クラウディア・カルディナーレ）と共に暮らしているが、長引く戦争に飽き飽きし、いつしか創作することをやめてしまっていたらしい。しかし、そんな状況下で妻がモデルとして推薦した、スペインの収容所から逃げてきたという若く美しい娘メルセと出会うと・・・。

◆ 『失楽園』で一世を風靡した作家・渡辺淳一は79歳になった今、性的不能となった男の戸惑いという「肉体の秘事」に『愛ふたたび』で真正面から向き合ったが、マークはあくまで芸術家として若く美しい裸の女性をモデルとし創作活動に励んでいるだけ。したがって、そこに男女の愛欲が入り込む余地は全く無かった。もちろん、リーはそれをわかった上でメルセをモデルとして推薦したわけだが、本作中盤ではその点において、老彫刻家と女性モデルとの関係に「若干の変化」が見られるのでそれに注目！

◆ 本作は基本的には淡々とメルセをモデルとした、マーク最後の創作活動を描いていくだけの映画だが、中盤に2つのスリリングな展開が訪れる。その一つはある日、メルセが山の中で出会った、レジスタンスの戦いで負傷した男ピエール（マーティン・ガメット）をアトリエに連れてきたこと。メルセはピエールをかくまってくれと訴えたが、さて政治に無関心なマークの対応は・・・？

◆ もう一つはピエールとメルセとの間でそんな話をしている最中に、ドイツ軍人ながら、マークの古くからの友人で、その芸術に心酔しているヴェルナー（ゲッツ・オットー）が訪れてきたこと。マークの著書を出版すべく、ヴェルナーが取材を重ねてくれていることにマークは喜んだが、ヴェルナーはこれから激戦の東部戦線に赴くらしい。しかして、ヴェルナーの運命は・・・？

◆ 彫刻の原型の塑像をつくることを彫塑というが、その作業の大変さは『カミーユ・グロートル』（88年）を観てよくわかった。しかし、いくら毎日美しい裸の女性を目の前にしているとはいえ、80歳という高齢で裸婦像を創造する作業は大変。その完成に何カ月を要したのかは知らないが、老芸術家としては、「これが最後の仕事！」と思いつめて全力を注いできただけに、完成が近づくと嬉しさとともに若干の寂寥感も・・・。

出会った当初はモデルのことも芸術のことも全く知らなかったメルセも、マークから「神が存在する証二つ」の話や、イヴの禁断の実となったりんごについてのセザンヌの言葉など、高尚な話を聞く中で次第に成長。したがって、作品が完成し「別れ」が近づくと、メルセは今後も引き続いてモデルの仕事をやりたいと（自己）主張し始めたから立派なものだ。しかして、いよいよ今日は作品が完成し、メルセと別れる日。さて、その日に向けてのマークの決断は・・・？

2013

（平成25）年11月9日記